

全国につながる 連携の輪



道玄坂と文化村通りを約2500人が踊る
「渋谷・鹿児島おはら祭」

ちがいを ちからに 変える交流・連携

今年8月、渋谷区と鹿児島市が、「観光・文化交流協定」を結びました。両区市は「渋谷・鹿児島おはら祭」の開催や、「災害時相互応援協定」を2000（平成12）年度に締結するなど交流を深めてきました。渋谷区が観光・文化の分野で他自治体と協定を締結することは、今回が初めてです。今回の協定をきっかけに、渋谷区では観光振興、文化振興に取り組んでいくとしています。一方、渋谷区は、長谷部健区長の下で企業や大学など産官学のパートナーと連携し、資源を活用して様々な地域課題の解決に取り組んでいます。

産官学、多様なパートナーと課題解決

渋谷区と鹿児島市の歴史的な縁

毎年5月に開催される「渋谷・鹿児島おはら祭」は、渋谷区と鹿児島市の交流の一環として回を重ね、今年、20回目を迎えました。道玄坂と文化村通りを約2500人が踊る姿は圧巻です。パレードでは審査も行われ、グランプリ賞などが決まります。

渋谷区と鹿児島市とは、鎌倉時代に渋谷一帯を所領した豪族の渋谷氏が、薩摩の地に一族で移住したゆかりがあります。

渋谷駅前にある忠犬ハチ公の初代銅像は、1934（昭和9）年に、鹿児島市出身の安藤照氏が造りました。

た。現在のハチ公像は2代目で、照氏の子息である安藤士氏の作品です。

旧山手通りには明治のはじめ西郷隆盛、その従弟の従道が渡った西郷橋があります。隣接する西郷山公園（目黒区）は、西郷邸跡です。渋谷の猿楽町を通る「西郷馬車道通り」は、明治時代に従道が邸宅から都心の官庁まで馬車で通っていた時から「西郷どんの馬車道通り」と呼ばれていました。渋谷区には、鹿児島ゆかりのスポットが点在しているので

す。
渋谷区と鹿児島市は2000（平成12）年4月、自然災害に対し相互に応援・協力するため、災害時相互

応援協定を締結しました。
その後、両区市は様々な交流を通じてお互いの絆を深めてきましたが、今回、「渋谷・鹿児島おほら祭」

渋谷区と鹿児島市が観光・文化交流協定を締結し今年8月



が第20回を迎えたことを契機として、交流を一層深めていこうと、8

月31日に「観光・文化交流協定」を締結しました。協定には、①観光及

び産業の振興に関する②歴史的関わりや文化を通じた交流促進に關

すること③住民の交流促進に関する

こと④民間資源を活用した取り組み

に関すること——について相互に連携・協力することが定められています。

長谷部健渋谷区長は「この協定をきっかけとして、鹿児島市が持つ魅力

を渋谷区から国内外に発信していくことや、渋谷区ならではのスト

リートカルチャーを鹿児島市から発信してもらうなど、相互の地域活性

につながるような取り組みを進めたい。また、渋谷区では、特産品など

を使った土産物が少ないので、鹿児島市の特産品を取り入れたお土産を

作るといったことも考えられるのでは。」と期待を示しています。

来年は、明治維新150周年の大きな節目の年です。NHK大河ドラマでは『西郷どん』も放送されるなど、ますます注目される1年になります。なお、来年の「渋谷・鹿児島おほら祭」は、5月19日、20日に開

催される予定となっています。

「くみんの広場」に渋谷区ゆかりの自治体が出店

渋谷区が観光・文化という分野で自治体と協定を結ぶのは、初めてのことで

です。同区には姉妹都市・友好都市が国内にありませんが、実は多くの自治体と交流を深めています。

災害時相互応援協定

を結んでいる自治体は、

前出の鹿児島市のほかに、秋田県大館市、東京都羽村市、長野県飯田市、静岡県河津町です。

大館市は、秋田犬発祥の地で、忠犬ハチ公のふるさとです。2002

(平成14)年度からは渋谷区内の学校給食で大館産の「あきたこまち」が使用されています。羽

村市は、渋谷区内にも流れる玉川上水の源です。

飯田市は、同市出身で、明治時代の日本画家・菱田春草が晩年を渋谷区代々木で過ごした縁。区立文化総合センター大

和田の伝承ホールでは、飯田に伝わる人形劇をはじめ民俗芸能を披露してもらうなど、広範囲の交流が続いています。河津町は、2002(平成14)年の区制70周年記念で、くみんの広場に参加したり、区内の公園に河津桜を寄贈してもらったこと、同町の花が渋谷区と同じ花菖蒲である

大勢の人たちが訪れる「くみんの広場」



ことなどの縁がありました。

1978(昭和53)年から始まり、毎年11月初旬に都立代々木公園B地区他で行われている「渋谷区く민의広場 ふるさと渋谷フェスティバル」には、こうした自治体に加えて、渋谷区にゆかりのある自治体が出店。観光PRや特産品の販売などを行っています。また、ステージでは、「ふるさとお国じまん」として各自治体のPRキャラクターによるショーや、特産品が当たるクイズ大会なども行っています。

「渋谷区く민의広場」は今年で40回目を迎え、区民だけでなく、多くの来街者も楽しめる渋谷区を代表するイベントとなっています。

認知症対策で共同研究プロジェクト

2015(平成27)年4月に長谷部健区長が就任。渋谷区は、大学や企業などと連携し、それぞれの強みを活かしながら、単一の自治体だけでは解決出来ない課題を解決していくとしていきます。

渋谷区は2016(平成28)年4月から、認知症について不安を抱え

る当事者や家族、地域のニーズを把握するため、神奈川県川崎市や、国内外の大学、NPO法人ピープルデザイン研究所と連携し、大学生による共同研究プロジェクトを始めました。プロジェクトの目的は、今後増加が見込まれる認知症の人が地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり。

慶應義塾 専修、青山学院の3大 学とオランダのデルフト工科大学の 学生が、渋谷区と川崎市が提示した 行政課題やテーマに基づき、地域の 状況把握やリサーチを行い、それぞ れ認知症の人の社会共生と課題解決 方法を検討。定期的にSkypeイ ンターネット上の電話サービスの一 つ)を活用した国際ミーティングを 行い、課題解決型のサービスや製品 企画の提案を行うものです。

2016(平成28)年11月8日 には、「2020年、渋谷。超福祉の 日常を体験しよう展(超福祉展)」 において、同プロジェクトの成果発 表会が行われました。

このプロジェクトは今年度が2年 計画の最終年となり、どのような 果が出るのかが楽しみです。

プロジェクトの主体は、あくまで大 学生たち。渋谷区と川崎市は、共同研 究のフィールドとして資源を提供し、 大学生たちの研究成果をフィールド バックしてもらうことで、課題の解 決に結び付けていこうとしています。

これまでの自治体間連携は、イベ ントや観光PR、物産展など観光・ 産業面での交流や、交流自治体を「第 2のふるさと」として位置付け、農 業や自然体験などで訪れる交流が多 いですが、渋谷区はこのプロジェクト は、民間企業や行政だけでなく、大 学生を巻き込み、学術研究を通じた

新たな連携の取り組みと言えます。

ちがいを ちからに 変える街

渋谷区は昨年、20年ぶりに区の基 本構想を策定。「成熟した国際都市」 を目指すために「ちがいを ちから に 変える街。渋谷区」という未来 像を設定し、これを押し進めるキャ ンペンスローガンを「YOU MAKE SHIBUYA」としまし た。観光・文化交流で協定を結んだ 鹿児島市も、大学生たちとプロジェ クトに取り組む川崎市も、「く민의 広場」など様々な縁で渋谷区と交 流を続けてきた自治体も、それぞれ がお互いの強みを活かし、互いの足 りない部分を補い合うパートナーで す。

渋谷区では、鹿児島市のように、 長い年月をかけてあたたためてきた交 流自治体との関係をさらに育んでい る一方、学術研究のフィールドとし て川崎市とも連携して学生たちの共 同研究プロジェクトを進めるなど、 新たなパートナーシップも始まって います。これからも様々な連携を進 める渋谷区の取り組みに注目してい きたいと思えます。

昨年11月の「超福祉展」で共同研究プロジェクトの成果発表(中央が長谷部健渋谷区長)

